

留学後の全身悪化とリバウンドを経て手首・首症状が軽減した成人アトピーの経過 (23 歳 成人)

症例 ID：001-20-MM2 | 記録日：2016 年 2 月 23 日

1. 診断・治療前経過

生後約半年頃から主に手足の関節内側に症状があり、高校期にはステロイドを毎日使用していました。
留学から帰国後、アルバイト、大学、自動車免許合宿などが重なり、21 歳頃に全身のかゆみが強くなりました。

2. ステロイド使用歴

項目	内容
使用内容	高校期にステロイドを毎日使用していました。
製品名	不明です。
強度	不明です。
使用期間	高校期を中心に使用しました。
中止時期	松本医院での治療開始前後です。
来院前／後	来院前に使用歴があります。来院後は使用していません。

3. 治療開始後の経過（リバウンドを含む）

時期	治療開始から	経過
生後約半年	発症	エビ摂取をきっかけに症状が始まりました。
高校期	外用継続	ステロイドを毎日使用していました。
21 歳頃	急性悪化	帰国後の生活変化と重なり、全身の強いかゆみと不眠が出ました。
2013 年 7～9 月	リバウンド	体温上昇、夜間不眠、強いかゆみが出て、2 か月集中して治療しました。
夏休み明け	検査変化	IgE が 333 から 852 へ上昇しました。
2016 年 2 月	経過中	IgE は 313 まで低下し、手首や首の症状はほとんどなくなりました。

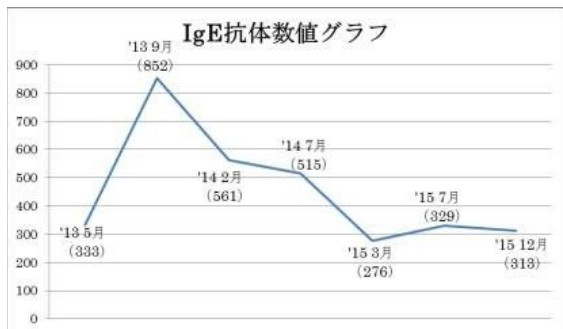
4. ピーク時期

ピークは、2013 年 7～9 月に強いかゆみ、体温上昇、夜間不眠があり、集中治療を要した時期です。

5. 困りごと

- 全身のかゆみで夜眠れない日が続きました。
- 外出中は掻くの我慢し、夏でも長袖長ズボンで過ごしていました。
- 学業やアルバイトへの支障がありました。

6. 検査値・写真・画像 ※治療前後の比較ではなく、経過中にみられた症状や検査値の記録として掲載しています。



経過中の画像記録。

7. 経過のまとめ

リバウンド後、IgE は 852 から 313 へ低下し、手首や首のアトピーはほとんどみられなくなりました。
肌の状態が改善し、旅行や服装など生活上の選択肢も広がりました。

本ページは、患者さんの経過を時系列で整理したものです。
症状や経過には個人差があり、同様の経過や結果を保証するものではありません。